
J K A杯 2021

競技会実施ガイドライン

【内容】

- 1.参加資格
- 2.競技形式
- 3.競技の進行
- 4.その他のルール
- 5.技の解説と注意事項

JKA 杯 2021 競技説明

1. 参加資格

JKA 杯 2021 の参加資格を下記に定める。

- ① 協会活動会員、非会員の別は問わないが、中学生以上で、大会の諸規程に従う意志のある者。
- ② 協会が認定するけん玉道初段以上の実力のある者。

2. 競技形式

※けん玉検査

競技開始前に各地区の審判団によりけん玉検査を行う。検査に合格したけん玉は選手が管理する。

(1) 競技方法

- ① 競技は、1種目3回制（競技種目1～10）による前半と1種目2回制（競技種目11～20）の後半に分けて行い、前半・後半を総合した合計得点で競技を行う。
- ② 成功1回につき1得点とする。
（競技前半：30点満点、競技後半：20点満点）
- ③ 競技種目は、本競技説明にて後述する。

(2) 競技順

- ① 競技順は原則として抽選とするが、開催するブロックの実情に合わせ、ブロックの判断で決めてよい。

(3) 競技の詳細と順位

- ① 順位は、競技の得点順により決定する。ただし、同点の場合は以下のように順位を決定する。
 - 1) 後半20点の得点が高い選手を上位とする。
 - 2) 1)でも順位を区別できない場合は、全ての種目を通じて、1回目の試技の成功数が高い選手を上位とする。
 - 3) 2)でも順位を区別できない場合は、全ての種目を通じて、2回目の試技の成功数が高い選手を上位とする。
 - 4) 3)でも順位を区別できない場合は、同順位とする。
- ・優勝決定戦、準優勝決定戦、三位決定戦は行わない。

3. 競技の進行

(1) 競技順と競技種目の試技と得点

- ① 組順に、審判長の合図（発声）により、各組の選手が一斉に試技を行う。
- ② 各組は前半戦（前半を通して行う）と後半戦（後半戦を通して行う）とに分けて行う。
- ③ 各試技成功1回につき1得点とする。

(2) 試合の開始

- ① 各組の選手は、試合場に使用が認められたけん玉を持って入場する。

- ② 各選手は、呼び出し順に審判席に向かって右から順に並び、各自の担当主審を確認し定位置をとる。
 - ③ 選手は、けん先を玉の穴に入れて、けん玉を片手で持ち、審判長の合図（発声）で正面（観客）に向かって礼をする。
- (3) 試技の開始
- 各試技は、審判長の『始め』の合図（発声）により開始する。
- (4) 試技の終了
- 各試技の終了の合図は特に行わない。
- (5) 試技の時間制限と判定
- 試技は、審判長の『始め』の合図（発声）の後、15秒以内に開始し40秒以内に終了すること。
試技の制限時間に違反した場合は、その試技を失敗とする。
- (6) 競技における罰則と判定
- ① 選手の呼び出しがあった後の、試合場内での練習行為は禁止する。
違反した選手には罰則が与えられる。
 - ② 各試技において、試合開始の合図（発声）の前に試技をおこなった場合、その試技は無効となり『注意』が与えられ、その試技をやり直さなければならない。その選手が2度目の『注意』を受けた場合は、その試技は失敗とする。3度目以降も同様とする。
- (7) 進行及び判定に対する異議申し立て
- 競技の進行や試技の判定について異議がある場合は、選手は主審に対して説明を求めることができる。
ただし、この場合においても最終的には審判団の裁定に従わなければならない。
- (8) 競技終了時の挨拶等について
- ① 競技の終了は、主審の合図（発声）による。選手は、けん先を玉の穴に入れて、けん玉を片手で持って、各自正面に向かって礼をして、試合場から退場する。

4. その他のルール

日本けん玉協会ホームページの「JKA杯2021およびJKA Jr.杯2021の開催について」ならびに本ガイドラインに記載のないことについては以下を参照のこと。

- ① 本大会に使用できるけん玉の規程に関しては、「公式戦使用けん玉規程」による。
- ② 本大会における審判員の要件、構成等の詳細については「審判技術概要」による。
- ③ 本大会における試技と技に関しては、「級・段位認定試験及び公式戦におけるルールの原則」、「別紙級・段位認定試験及び公式戦におけるルールの原則解説用写真」ならびに後述の「JKA杯2021の競技種目における技の解説と注意事項」による。
- ④ 本大会で適用される罰則に関しては、「公式戦における罰則規程」による。
- ⑤ 本大会の関係者（選手、審判員、運営員等）のあり方に関しては、「倫理規程」による

5. JKA 杯 2021 の競技種目における技の解説と注意事項

JKA 杯 2021 の競技種目における正しい技の定義は、「級・段位認定試験及び公式戦におけるルール原則」及び当項「技の解説と注意事項」による。

【持ち方】：

けん玉の持ち方は3項及び別紙7項を参照のこと。持ちかえの必要な技は、まず最初の持ち方を示し、その後に持ち替え後の持ち方を示す。

例 つるし一回転灯台～けんの場合

【持ち方】 つるし技の持ち方

最初の持ち方を示す

2本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左にけん、右に玉）。

持ち替え後の持ち方 1, 玉の持ち方 2, とめけんの持ち方に準じる持ち方

1回目の持ち替え後の持ち方

2回目の持ち替え後の持ち方

【技の動作】：技の「構え」から「成功」までの動作を示す。

【注意事項】：技の成功・失敗の判定に関する注意事項を示す。

以下に、技の解説と注意事項を記す。

① すべり止め極意

【持ち方】 極意技の持ち方

けん先を手のひら側にし、糸の出ている側の皿胴を下にして片手でけんの小皿と大皿を挟む様に持つ。皿胴より中皿側のけんに触れてはならない。

【技の動作】

片手でけんの小皿と大皿を持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて、玉の穴を利用して玉をすべり止めに乗せて静止させる。玉及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・皿胴より中皿側のけんを持つてはならない。けんを持つ手はけん先に触れても良い。
- ・玉を回転させてはならない。
- ・主審の「成功」の合図（発声、挙手）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・つり下げた玉をまっすぐ引き上げる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を引き上げるなど技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

② 宇宙一周～地球まわし

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて「けん先と皿胴」に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ上げ小皿に乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる（宇宙一周）。次いで、玉を投げ上げて玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる（～地球まわし）。

【注意事項】

- ・「けん先と皿胴」に玉を乗せる時は、玉は糸の出ている側の「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・宇宙一周はけん先と皿胴～けん～大皿～けん～小皿～けん～中皿～けんの順でもよい（～けん：玉の穴にけん先を入れること）。
- ・玉をけんから皿に乗せるときは、「回転」（玉を回転させて皿に乗せる）又は「抜き」（玉を回転させずに皿に乗せる）など特に制限しない。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を「けん先と皿胴」に乗せる動作あるいは「地球まわし」をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を「けん先と皿胴」に乗せる動作をするために、あるいは「けん先と皿胴～けん」、

- 「皿～けん」、「けん～皿」、「地球まわし」を行う際に、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、玉の穴にけん先から抜けなかったので再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

③ うらふりけん～うら地球まわし

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。玉を手前に振り出し、けんを前方に動かして玉を引き、空中で玉を向こう側に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる（うらふりけん）。次いで、玉を投げ上げて玉を向こう側に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる（～うら地球まわし）。

【注意事項】

- ・うらふりけんの動作中、けん又は玉の一部でも肩幅の範囲から外に出ないこと。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を手前に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・手で玉を持たずに構えている場合、玉を前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を振るなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・玉の穴にけん先が入った状態から玉を投げ上げるための動作を開始した後に、一連の動作で玉の穴がけん先から抜けなかった又は再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

④ さか落とし～はねけん

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

「灯台」を完成させた後、そのままけんを投げ上げけんを手前に1/2回転させ、けん先を玉の穴に入れる（さか落とし）。次いで、けんを投げ上げけんを手前に1回転させ、けん先を玉の穴に入れる（～はねけん）。

【注意事項】

- ・連続技の途中の灯台の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- ・「灯台」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させた場合は中断とは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- ・「さか落とし」「はねけん」を行うための、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した時点で技が開始されたと見なす。
- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・「はねけん」を開始した後に、投げ上げようとしたけんが玉の穴から抜けなかったため、再び投げ上げるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。
- ・「灯台」完成までの動作及び注意事項は「灯台」の項目を参照のこと。

⑤ 一回転飛行機～灯立

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せかまえる。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に1.5回転させ、けん先を玉の穴に入れる（一回転飛行機）。次いで、けんを投げ上げ、けんを手前に1/2回転させ、玉の上に中皿を乗せてけんを立てて静止させる（～灯立）。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・けん先が玉の穴に完全に入ること。

- ・灯立を完成させた後、主審の「成功」の合図(挙手)があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを手で持たないで構えている場合、けんを前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを前に振り出すなど技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・けん先を玉の穴に入れた状態から、けんを投げ上げ手前に1/2回転させるための、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した後に、けん先が玉の穴から抜けなかった又は再度やり直した等、技の一連の流れを止めるあきらかな動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑥ 宇宙遊泳

【持ち方】 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

持ち替え後の持ち方 玉の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。糸が張った状態のまま玉を振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけんと玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけん玉が手前に1回転してきた時に玉をつかみ、「飛行機」のようにけんを振り出した後、けんを手前に1/2回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん先の玉の穴への入れ方は、すくいけんや一回転飛行機にならないこと。
けん先は水平より下向きの状態で玉の穴に入れること。
- ・けんを放す前に、玉を前後にふる、リズムをとるために動作を反復することは可とし、この予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技は片手で行うこと（最初にけんを持った手で玉をつかむこと）。
- ・技を開始した後に、けんを放す前に、振る動作をしている玉を再び手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・技は体の正面又は側面側で行うこと

⑦ 円月殺法

【持ち方】 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。糸が張った状態のまま玉を振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけん玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけん玉が手前に1回転してきたときけんをつかみ、「ふりけん」のように玉を振り出した後、玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいならない。
- ・玉の穴へのけん先の入れかたは、すくい玉や二回転ふりけん、または前ふりとめけんにならないこと。玉の穴が水平より下向きの状態でけん先を入れること。
- ・けんを放す前に、玉を前後に振る、リズムをとるために動作を反復することは可とし、この予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技は片手で行うこと（最初にけんを持った手で持ち替え後もけんをつかむこと）。
- ・技を開始した後に、けんを放す前に、振る動作をしている玉を再び手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・技は体の正面又は側面側で行うこと

⑧ つるし一回転灯台～とんぼ返り

【持ち方】 つるし技の持ち方

二本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左にけん、右に玉）。

持ち替え後の持ち方 玉の持ち方

【技の動作】

糸の中程を持ち、けん玉を下につり下げてかまえる。つり下げたけん玉を糸を使って前方に振り、糸を引いてけんを手前に1回転させ、糸を離して玉をつかみ空中で手前に1回転してきたけんを玉の上に中皿を乗せて、けんを立て静止させる（つるし一回転灯台）。次いで、けんを投げ上げけんを手前に1回転させ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる（～とんぼ返り）。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- けん玉をつるした時、糸を指にかけてはならない。また、糸を余らせてつまんではならない。
- 技は片手で行うこと（つるした手で玉をつかむこと）。
- 連続技の途中の「灯台」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- 灯台とんぼ返り完成後、主審の「成功」の合図（発声、挙手）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- つるしたけん玉を前方に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとる、けん玉を前後に振り始めるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- けん玉を前に振り出すなど技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- 「つるし一回転灯台」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させた場合は中断とは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- 連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑨ うぐいすの谷渡り

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて、玉の穴を利用して玉を大皿（又は小皿）の縁に乗せ、けん先に玉を接触させた状態で静止させる。次いで、玉を投げ上げそのまま回転させることなくけん先を越えて玉の穴を利用して玉を小皿（又は大皿）の縁に乗せ、けん先に玉を接触させた状態で静止させる。最後に、玉を投げ上げそのまま玉を回転させずに玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- 玉を回転させてはならない。
- 玉を皿の縁に乗せる順番は、「大皿の縁～小皿の縁」でも「小皿の縁～大皿の縁」でもよい。
- けん先と玉の接触が見られない場合でも、玉がけん先に触れることが可能な位置関係、すなわち、演技者の正面（演技者の反対側に向いている皿側）から見たとき、けん先と玉が重なる位置関係にあること。（大皿極意、小皿極意にならないこと）
- 連続技の途中の「うぐいす」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- 玉の穴にけん先が完全に入ること
- つり下げた玉を大皿の縁に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- 玉を引き上げるなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- 「うぐいす」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させ場合は中断してやり直しとは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- 連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑩ 天地二段（玉つきさし～中皿～玉つきさし）

【持ち方】 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わないが、けん先に指や手が触れないこと。

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げ1／2回転させ、玉の穴にけん先を入れてすくい上げる。次いで、玉を投げ上げて中皿に乗せる。さらに玉を投げ上げて（必要に応じて玉を回転させて）玉の穴が水平より上向きの状態のときに、けん先を入れてすくい上げる。

【注意事項】

- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「構え」から玉を引き上げる時、玉の回転方向は問わない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・玉の穴にけん先を入れてすくい上げる時、玉の穴が水平より上向きの状態でけん先を入れてすくい上げること。
- ・玉を中皿に乗せる時、玉は「回転」（玉を回転させて中皿に乗せる）又は「抜き」（玉を回転させずに中皿に乗せる）など特に制限しない。
- ・中皿に乗せた玉を空中に投げ上げる際、玉の回転の有無、回転方向、回転回数などは特に問わないが、けん先を玉の穴に入れる際に玉の穴は水平より上向きの状態になっていること。
- ・玉をすくい上げてから中皿に玉に乗せる動作をするために、あるいは中皿から玉の穴にけん先を入れてすくい上げる動作をするために、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、けん先が玉の穴から抜けなかった又は再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・玉の穴にけん先を入れてすくい上げた際、手や腕あるいは体で審判員からけん玉及び必要な動作が見えない位置になった場合は失敗と判定する。
- ・中皿に乗せた玉を投げ上げてすくい上げた後に、主審の「成功」の合図（発声、挙手）の前に、けん先から玉の穴が完全に抜けた場合は失敗とする。

⑪ ろうそく持ち～うらふりけん

【持ち方】 ろうそくの持ち方

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

ろうそくの持ち方でけんを持ち、玉を下につり下げて構える。玉を手前に振りだし、けんを前方に動かして玉を引き、空中で玉を向こう側に1回転させけんを放し、けんを1/2回転させてけんをつかみ、玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・片手で行うこと（けん先を持った手で、とめけんの持ち方に準じる持ち方に替えること）。
- ・けんを持ち替える時のけんの回転の向きは特に制限しない。
- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいない。
- ・動作中けん又は玉の一部でも、肩幅の範囲から外にでないこと。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を手前に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・手で玉を持たずに構えている場合、玉を前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を振るなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑫ つるし一回転飛行機～はやて中皿

【持ち方】 つるし技の持ち方

二本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左にけん、右に玉）。

持ち替え後の持ち方 1, 玉の持ち方 2, 大皿の持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

糸の中程を持ち、けん玉を下につり下げて構える。つり下げたけん玉を糸を使って前方に振り、糸を引いてけんを手前に1.5回転させ、糸を離して玉をつかみ空中で手前に1.5回転してきたけん先を玉の穴に入れる（つるし一回転飛行機）。次いで、けん玉を投げ上げ、けん玉を回転させずに、けんをつかみ、玉の穴からけん先を抜き、玉をすばやく中皿に乗せる（～はやて中皿）。

【注意事項】

- ・けん玉をつるした時、糸を指に掛けてはならない。また、糸を余らせてつまんではいない。
- ・技は片手で行うこと（つるし一回転飛行機：つるした手で玉をつかむこと、はやて中皿：玉を持った手でけんをつかむこと）。

- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・つるしたけん玉を前方に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとる、けん玉を前後に振り始めるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けん玉を前に振り出すなど技を開始した後に、けん玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「つるし一回転飛行機」の完了後、玉からけんを持ち替えて玉を中皿に乗せる間に、けん玉と玉を結ぶ糸が張った状態で玉を動かして乗せてはならない。
- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいけません。また、中皿に乗せた玉に手が触れてはいけません。
- ・「つるし一回転飛行機」完了の状態からけんをつかもうとする為に、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した後に、けんが上手くぬけなかったので再びけんを抜いてつかもうとしたときなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑬ さるのこしかけ～けん

【持ち方】 ろうそくの持ち方

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

ろうそくの持ち方でけんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして、玉の穴を利用して玉を大皿（又は小皿）の縁に乗せ、けん玉と玉を接触させた状態で静止させる（さるのこしかけ）。次いで、けん玉を空中に投げ上げ、けん玉を1/2回転させけん玉をつかみ玉の穴にけん先を入れる（～けん）。

【注意事項】

- ・玉に乗せるのは、「大皿の縁」でも「小皿の縁」でもよい。
- ・「さるのこしかけ」の乗せ方は、鉛直上方に引き上げても前振りでもうら振りでも可とする。
- ・玉を大皿（又は小皿）の縁に乗せた時、けん玉と玉の接触が見られない場合でも、玉がけん玉に触れることが可能な位置関係、すなわち、演技者の正面（演技者の反対側に向いている皿側）から見たとき、けん玉先と玉が重なる位置関係にあること。（大皿極意、小皿極意にならないこと）
- ・連続技の途中の「さるのこしかけ」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- ・「さるのこしかけ」からけん玉を投げ上げる時のけん玉の回転の向きは問わない。
- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいけません。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・技は片手で行うこと（ろうそく持ちをした手でとめけんの持ち方に準じる持ち方に持ち替えること）。
- ・つり下げた玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を引き上げた後に再び手で玉を押さえた場合は動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「さるのこしかけ」完了後にけん玉を空中に投げ上げるために、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、一度静止させて再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「さるのこしかけ」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させ場合は中断してやり直しとは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑭ 掛け軸返しとめけん

【持ち方】 掛け軸の持ち方

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

掛け軸の持ち方でけんを持ち、つり下げた玉を、まっすぐ引き上げ玉を回転させずにけんを放して、けんを手前に1回転させてけん玉をつかみ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・片手で行うこと（「掛け軸持ち」をした手で、「とめけんの持ち方に準じる持ち方」に持ち替える

こと)

- けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいならない。
- 玉の穴にけん先が完全に入ること。
- つり下げた玉をまっすぐ引き上げる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- 技を開始した後に、引き上げた玉を再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑮二回転灯台

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構える。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に2回転させ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- 二回転灯台を完成させた後、主審の「成功」の合図（発声、挙手）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- けんを手で持たないで構えている場合、けんを前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- けんを前に振り出すなど技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑯宇宙遊泳返し

【持ち方】 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

持ち替え後の持ち方 1, 玉の持ち方に準じる持ち方 2, とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。糸が張った状態のまま玉を振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけんと玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけん玉が手前に1回転してきた時に玉をつかみ、糸が張った状態のまま再びけんを振り上げて玉を放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけん玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけん玉が手前に1回転してきたときけんをつかみ、「ふりけん」のように玉を振り出した後、玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- 玉をつかんだ時、糸が手や指に触れても可とする。
- 玉をつかめなかった時も、次に糸が張った状態のまま再びけんを振り上げることができれば、可とするが、その際も指や手が必ず玉に触れていること。（いわゆる「ジャンピング」の動作を可とする）
- けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいならない。
- 玉の穴へのけん先の入れかたは、すくい玉や二回転ふりけん、または前ふりとめけんにならないこと。玉の穴が水平より下向きの状態でけん先を入れること。
- けんを放す前に、玉を前後に振る、リズムをとるために動作を反復することは可とし、この予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- 技は片手で行うこと（最初にけんを持った手で持ち替え後もけん玉をつかむこと）。
- 技を開始した後に、けんを放す前に、振る動作をしている玉を再び手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- 技は体の正面又は側面側で行うこと

⑰ 胡蝶の舞

【持ち方】 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

持ち替え後の持ち方 1, 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

2, とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。糸が張った状態のまま玉を振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけんと玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけんが玉が手前に1回転してきたときけんをつかみ、糸が張った状態のまま再びけんを振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけんと玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけんが玉が手前に1回転してきたときけんをつかみ、「ふりけん」のように玉を振り出した後、玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・2回目の持ちかえでけんをつかんだ時、皿胴をつかんではいない。
- ・玉の穴へのけん先の入れかたは、すくい玉や二回転ふりけん、または前ふりとめけんにならないこと。玉の穴が水平より下向きの状態でけん先を入れること。
- ・けんを放す前に、玉を前後に振る、リズムをとるために動作を反復することは可とし、この予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技は片手で行うこと（最初にけんを持った手で持ち替え後もけんをつかむこと）。
- ・技を開始した後に、けんを放す前に、振る動作をしている玉を再び手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・技は体の正面又は側面側で行うこと

⑱ ろうそく返し

【持ち方】 ろうそくの持ち方

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

けん先を持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて中皿に乗せる（ろうそく）。次いで、けん玉を空中に投げ上げ、けんを1/2回転させけんをつかみ玉の穴にけん先を入れる（ろうそく返し）。

【注意事項】

- ・「ろうそく」の乗せ方は、前振りでもうら振りでも可とする。
- ・「ろうそく」からけん玉を投げ上げる時のけんの回転の向きは問わない。
- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではいない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること
- ・技は片手で行うこと（ろうそく持ちをした手でとめけんの持ち方に準ずる持ち方に持ち替えること）。
- ・つり下げた玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・手で玉を押さえずに構えている場合、玉を前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を引き上げる、あるいは玉を振り出した後に再び手で玉を押さえた場合は動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「ろうそく」完了後に玉を空中に投げ上げるために、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、一度静止させて再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑲ 月面着陸

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って構える。けんを放して玉を動かしてけんを引き空中でけんを1/4回転させ、玉の上に大皿を乗せてけんを静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・構える時、皿胴に糸を引っかけてはいない。
- ・けんの引き上げ方は、前振りでもうら振りでも可とする。
- ・「一回転月面着陸」にならないこと。
- ・玉の上に大皿を乗せた時のけん先の向きは問わない。
- ・玉と皿の間に糸がはさまった場合は可とする。

- ・月面着陸を完成させた後、主審の「成功」の合図（挙手）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・手でけんを持って体を一旦静止させて構えた後、けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを手で持たないで一旦体を静止させ構えた後、けんを前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑳ 大皿～回転おとしけん

【持ち方】 とめけんの持ち方に準じる持ち方
持ち替え後の持ち方 玉の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて大皿に乗せる（大皿）。次いで、けん玉を空中に投げ上げ、けんを手前に3／4回転させ玉をつかみ、けん先を玉の穴に入れる（～回転落としけん）。

【注意事項】

- ・片手で行うこと（最初にけんを持った手で、玉の持ち方に持ち替えること）
- ・玉の引き上げ方は、鉛直上方に引き上げても前振りでもうら振りでも可とする。
- ・けん先が玉の穴に完全に入ること。
- ・つり下げた玉を大皿に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を引き上げるなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「大皿」完了後に、膝をまげる、手を上下させる等のけん玉を空中に投げ上げるための予備動作を開始した後に、一度静止させて再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。